

「原発からの撤退を求める署名」

2011年10月31日現在 146 筆

「はがねの会」では、左記の「請願主旨」で「原発からの撤退を求める署名」をおこなっています。

開始から4カ月、署名は146筆になりました。先日の東京での6万人集会をはじめとして、様々な地域で多彩な原発撤退を求める取り組みが行われています。わたしたちの署名活動も、こうした運動の一環として、今後「微力は無力ではない」の合言葉で進めたいと考えています。職場のみなさんのいつもの協力をお願いいたします。

ますます明らかになった原発の危険性

原発事故から7か月が過ぎましたが、時間の経過とともに、その危険性がますます明らかになりつつあります。

故郷を追われた福島の方々は、一刻も早く帰りたいと願っていますが、そのために必要不可欠な除染でも、その規模、期間、置き場、費用のどの問題をとっても未だ目途がたたないという状況です。原子炉の溶けた燃料の取り出しは15年後、廃炉は30年を超える見込みです。

原発からの撤退を求める署名

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

【請願主旨】

わたしたち「はがねの会」は、「㈱神戸製鋼所及びその関連会社の職場を、そこで働く全ての労働者にとって働きやすく、また働き甲斐のある職場にする」ことを目的とした会です。今、わたしたちの職場では、少ない要員で最大限の生産性のアップが追求され過密労働が常態化しています。またコストダウンがトコトン進められた結果、人と設備への投資がおろそかにされ、「ものづくり」技術力が衰えています。そのような職場では労働災害が多発しており、働く者の安全が脅かされています。

このような職場で働いているわたしたちにとって、国民の命と健康を、広範にまた未来にわたって脅かしている福島第一原子力発電所の事故は他人事ではありません。

原発はばく大な放射性物質(死の灰)をかかえています、それをどんな事態がおきても閉じ込めておく安全な技術は存在しません。未完の技術と言わざるをえません。そしてひとたび大量の放射性物質が放出されれば、被害は深刻かつ広範囲で将来にわたっても影響を及ぼします。

そうした原発を、世界有数の地震・津波国である我が国に、集中的に建設することは危険極まりないことです。この日本に地震・津波から安全な原発はひとつもありません。

歴代政府が「安全神話」にしがみつき、繰り返しの警告を無視して安全対策をとらなかったことが、どんなに深刻な結果をもたらすかも明瞭となりました。

以上をふまえて、わたしたちは、原発からの撤退を要求します。

【請願項目】

1. 日本政府が原発からの撤退を決断し、原発をゼロにする期限を決めたプログラムをつくることを求めます。

氏名	住所

(取扱い団体) はがねの会

原発再稼働を急ぎ、輸出を推進したい野田民主党政権

野田政権は10月28日、エネルギー白書を閣議決定しました。そこでは「中長期的に、依存度を可能な限り引き下げていく」と表明。期限を切ることや、ゼロを目指すことは盛り込まれていません。そして福島原発事故の検証が終わっていないにもかかわらず、再稼働に柔軟な態度で臨もうとしています。また、輸出にも積極的です。こういう野田政権の姿勢転換を求めて、声をあげていきましょう。

「原発ゼロを目指す」

はがね文芸

食卓

未央

食卓に柿三つありただ眺む
チエロ聴けば常の食卓秋めいて
秋鯖や三日の休み終りなり



署名にご協力を!!

神鋼に働く仲間のみなさんへのお願い。
この用紙を使って署名を上げ「はがねの会」宛、
送付いただければありがたく存じます。